



家畜保健衛生所だより

R6.11.11

福岡県・熊本県でランピースキン病の発生が続発！

11月6日、福岡県の農場(乳用)で国内初のランピースキン病の発生が確認されましたが、11月9日、同県の発生農場から移動していた牛が飼養されていた熊本県の1農場(乳用)で本病の発生が確認されました。さらに、11月6日の国内初の発生(福岡県)以降、11月11日時点では、福岡県で3例、熊本県で1例と、立て続けに4例発生しています。ランピースキン病について細心の注意を払い、飼養衛生管理の徹底をお願いします！

【ランピースキン病のポイント】

- 牛や水牛の病気で人には感染しない。
- 皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の低下等、多様な症状を示し、生産性の低下による経済的被害は甚大。
- 本病ウイルスは、皮膚病変、唾液、鼻汁、乳汁、精液等から検出され、感染牛との接触や、吸血昆虫(蚊、サンバエ、ヌカカ、マダニ等)による機械的伝播、汚染された飼料、水、器具を介しての感染、また子宮内胎児への感染が認められる。

⑥⑥ ランピースキン病発生に伴う防疫対策の徹底について ⑥⑥

- ①飼養牛に疑わしい症状が発見された場合には、獣医師又は家畜保健衛生所に速やかに通報してください。
- ②本病は、吸血昆虫により感染する可能性があるため、吸血昆虫対策(虫の発生場所を減らす、トラップ、殺虫等)を行いましょう。
- ③他の畜産関係施設で使用した器具は、本病ウイルスが付着している可能性があるため、原則持ち込まない、やむを得ず持ち込む場合には、十分に洗浄と消毒をしてください。
- ④血液を介して本病が感染する可能性があることから、注射針、人工授精用器具、その他体液が付着する物品を使用する際には、1頭ごとに確実に交換または消毒を実施してください。

中予家畜保健衛生所 TEL 089-990-1333
携帯 090-6282-6129 (夜間・休日)